

もちろん、医師が製薬会社から仕事の正当な対価として金銭を得ること自体に問題はない。しかし今回の調査では、両者の関係性について疑問を抱かざるを得ない状況が浮き彫りになつた。それは金銭を受け取つた医師のリストに、臨床現場で医師が診断・治療の目安とする「診療ガイドライン」の作成者が多く含まれていたことだ。

開示情報のビッグデータで製薬会社の基準値を調査

ハイ
車
診療

Mindsでは診療ガイドラインを「科学的根拠に基づき、系統的な手法により作成された推奨を含む」文書であり、「患者と医療者を支援する目的で作成され」、「臨床現場における意思決定の際に、判断材料の一つとして利用すること」ができる、と定義している。そのような「診療基準」を作成する立場にある医師の責任はきわめて重大である。

さらに「DSM-IV」の作成委員長だった精神科医のアレン・フランセス氏は自著「(正常)を教え」(講談社)において、13年に改訂された「DSM-IV」が製薬マネーの影響で診断基準を緩めた結果、過剰診断で患者が増え、薬の売り上げが増えたと告発した。日本の医療界も同じ轍を踏む恐れはないのだろうか。

*2 利益相反を防ぎ、適正な臨床研究、臨床試験を図るための倫理指針や申告規定を定めたもの。

私たちが受けてきた医療は製薬会社と医師の関係性によって歪められてきたのではないか――。

医療への信頼回復のために製薬業界が始めた情報開示について、伊藤隼也氏と本誌取材班は14年11月号で製薬会社から謝礼をもらつた医師の実名を公開し、製薬業界の自svilleルールによる現行の開示制度では不十分で、医療不正が生まる余地があることを指摘した。その後の2か月にわたるデータ解析の結果、製薬会社と医師のさらなる深い「利害関係」が浮かび上がってきた。

卷之三十一

開示情報のビッグデータを解析して浮かび上がった医療の不透明な関係

製薬会社から 代をもらった医師が 「診療基準」を作っていた

名目で金銭を受け取ったこと

伊藤隼也
と本誌取材班
from Showa



一の業界団体である日本製薬工業協会（製薬協）が策定した「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」に基づき開示された、13年度の製薬会社から医師個人への支払い情報のうち、「原稿執筆料・監修料」と「講師謝金」

取材:03年よりフジテレビ「とくダネ!」
認知症予防のための簡単レッスン20』(文
野県・須崎エクササイズ) (宝島社) など。

折しも製薬会社と医学研究者の疑わしい関係が問題となつた「ディオバン事件」が騒がれたあとだつたため、本来我々が受けるべき正当な医療の姿が歪められてしまう危険性を示唆した記事は、読者に大きな反響を呼んだ。

しかし、医療とカネを巡る疑惑は尽きない。

前回記事では医薬品メーカー

「コンサルティング等業務委託費」の開示情報を精査すると、年間1000万円近く受け取っていた医師が多く見られた。中には一つの製薬会社から年間1500万円超となる支払いを受け取った医師も確認できた。これらの医師は製薬会社の薬の開発や使用に関するアドバイス料として、これだけの対価を得てい

アドバイス料が
年間1500万円超

一の業界団体である日本製薬工業協会（製薬協）が策定した「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」に基づき開示された、13年度の製薬会社から医師個人への支払い情報のうち「原稿執筆料・監修料」と「講師謝金」の項目を独自に調査したが、その際に触れなかつた項目がまだあつた。それが「コンサルティング等業務委託費」だ。

そもそも「コンサルティング」とは何を指すのか。製薬協のホームページではコンサルティング業務について、「企業が行なう新薬開発や、市販後情報提供を計画する際に、専門的な見地からアドバイス

- * 1 製薬大手ノバルティスファーマ社の陣痛剤「ディオパン」において市販後の臨床試験のデータに不正が発覚。試験を実施した5大学の主任研究者の研究室にはノ社から11億円以上の寄付金が提供され利益相反を疑われた。

〈追及キャンペーン第2弾〉

そのような中、今回本誌の調査で、あるガイドライン作成委員の記録に目が留まつた。福島県立医科大学医学部整形外科学講座教授の矢吹省司氏には、13年度に「コンサルティング等業務委託費」として塙野義製薬から約95万円が支払われている。氏は「腰痛診療ガイドライン2012」作成委員のひとりである。



ガイドラインは各学会が監修しまとめられている

「新たな治療薬が世に出て患者さんに役立てばよいと思いつかって、開わっています。ガイドライン作成に関わったから企業との関連を持つてはいけないと思つております」(矢吹氏)
続けて、腰痛ガイドラインでなぜ前述のように「明確なエビデンスはありません」とされる抗うつ薬を推奨したのか尋ねた。

「このガイドラインはエビデンスが高い論文を中心にまとめられている」としながらも、「作成委員の意見を取り入れた項目も入っております」とした。その上で、

の接点に一層の注意を払う必要があるだろう。

日本では先日、厚生労働省の検討会で製薬会社の医療費開示をして整備することは「困難」との認識で一致したと報じられた。患者に対する信頼と国民の健康を守るため、法整備によって透明化する必要はあるのではないか。

患者は自分の病気に対しても医療に頼らざるを得ない。自分の病気と治療に疑いをもたず、安心して身を委ねられ医療を受けられることだけを望んでいる。

サービスアンケート

[本章の構造]

郵便はがきにアンケートの回答と郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、職業を書き、下記までお送りください。アンケート回答者の中から抽選で25名の方に、サビオ特製図書カード3000円分を差し上げます。
14年4月1日から発送料金が引き上げました。ハガキは切手2回になりますのでお控えください。尚、料金不足のまま届いたハガキについては、返送させていただきますので了承ください。
宛先〒101-8021 東京都神田郵便局私書箱8号
小学館サビオ編集部アンケート2月号係
・締切／2015年(平成27年)2月3日(当日消印有効)
・当選者はサビオ2015年4月号にて発表します。

イン」に従つて対応しております」(理化学研究所・加藤忠史シニアチーフリーダー)
先に挙げた糖尿病の診療ガイドラインでは、作成にあたる委員が企業や団体との利益相反を疑われるような事例に対し、監修する学会が申告規定を設け、医師が支払いを受けた企業・団体を記載している。他の診療ガイドラインも同様の姿勢を見せており、「腰痛に抗うつ薬」

その内容は、慢性腰痛への第2選択薬として精神科医療で使用する「抗うつ薬」を推奨したものだった。大手メディアも当時、この意外な処方法について大々的に報じた。

だが、この指針に専門家から疑義が出た。フジ虎ノ門健 康増進センター長で精神科医の齊尾武郎氏が述べる。

「確かに心理的なストレスが原因で腰痛が生じたり、腰痛によってうつ状態になることもあります。しかし、そうした患者に抗うつ薬を処方して症状が改善する明確なエビデ

たのか。当時、「うつ病には体の痛みや肩の痛みが現われることがある」と製薬2社が抗うつ薬を強力に推進するキャンペーンを打ち出していた両社は過去、ガイドラインを監修した学会への寄付をしていました。一方、作成委員長が所属していた大学の講座にも、薬学寄付金を支払っていた（いずれも12年）。

その一社の塩野義製薬からコンサルタント料を受け取っていた矢吹氏に、「ガイドライン作成委員会が企業活動に参加して対価を得ることに対しても

「抗うつ薬は上手に使うと腰痛の軽減に役立ちますが、一般的には腰痛に抗うつ薬を処方することに慣れていない医師が多いと思います。腰痛に対する抗うつ薬の使い方を是非学んで、必要な患者さんに是非踏み出せばいい」という意味で入れてもらいまして」(矢吹氏)

九十一

購入のきっかけは?

①新聞広告を見て[]新聞 ②雑誌広告を見て
 ③書店で実物を見て ④毎号購入

どの記事を読みたくて購入しましたか? (目次のページ数をお書きください)
 良かった記事を2つあげてください (目次のページ数をお書きください)
 つまらなかった記事を2つあげてください (目次のページ数をお書きください)
 品扱購読している新聞、雑誌は何ですか?

お問い合わせ窓口

上級争奪的の定めにより、この委員に当選された方は、この時のほかの懇親に入選できない
となりますのでご了承ください。
お問い合わせのアンケートの内容は、お名前、ご住所、電話番号等の個人情報を特徴できる部分を記

薬会社からコンサルティング料を得ていた各疾病の「診療ガイドライン」作成委員リスト

高血圧(高血圧治療ガイドライン2014)		糖尿病(科学的根拠に基づく糖尿病治療ガイドライン2013)	
本和朝	札幌医科大学 学長	2社から	22万2741円
木村克之	東京大学大学院医学系研究科 胃腸・内分泌内科学分子遺伝学 講師、特任准教授	1社から	11万1370円
北川信彦	東京医科歯科大学 糖尿病・腎臓・内分泌内科学 主任教授	1社から	7万7959円
大曾根真	東北大大学院医学系研究科 内科肾脏学講座 肾・高血圧 内分泌分野 教授	3社から	72万3909円
山田正明	三重大学大学院医学系研究科 糖尿病・腎臓内科学 教授	1社から	11万1370円
小林裕	慶應義塾大学医学部 内科学教室腎臓内分泌代謝内科 内科 教授	5社から	67万9537円
木村真一郎	筑波大学大学院医学研究科 痛風・薬理学講座 教授	2社から	27万3123円
中村祐輔	福井県立大学大学院医学研究科 脳神経内科学 教授	1社から	5万5685円
山崎拓輔	茨城大学大学院医学研究科 糖尿病・腎臓・神経内科学 教授	2社から	22万2741円
大庭直樹	川崎医科大学 脊髄・高血圧内科学 主任教授	2社から	33万4112円
木村七郎	自治医科大学 内科学講座循環器内科部門 主任教授	4社から	174万8516円
大庭一成	東京大学大学院医学系研究科循環器内科学 教授	5社から	124万964円
多田野夫	慶應義塾大学 名誉教授	1社から	44万5480円
西澤重幸	札幌医科大学 保健医療学部 基礎臨床医学講座 教授	1社から	7万円
和田幸	新小岩市立病院 痘瘍科	4社から	55万6851円
木村謙	東京大学医学部附属病院 糖尿病 講師	3社から	31万1836円
大河内洋	埼玉医科大学 脊髄内科 教授	1社から	14万7000円
鈴木紀夫	琦玉医科大学循環器医療センター 神経内科 教授 副院長	9社から	487万2278円
佐光栄	京都医療センター 痘瘍研究センター 内分泌代謝高血圧研究 部 部長	1社から	11万1370円
木下一	近畿大学医学部 糖尿病内科 教授	6社から	96万2536円
大曾根真	愛媛大学大学院医学系研究科 糖尿病・呼吸器・高血圧内 科 教授	1社から	27万8426円
大庭直樹	岐阜医科大学 内科学講座腎臓・呼吸・神経統合内科学分野	1社から	16万2705円
西宮伸	埼玉医科大学 小児科 教授	1社から	10万円
石田均	吉林大学医学部 第三内科学教室 教授	2社から	25万5685円
石橋俊	吉田医科大学 内科学講座内分泌代謝学部門 教授	4社から	30万4686円
細田裕也	京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 教授	6社から	280万4671円
宇津貴	滋賀医科大学 内科学講座糖尿病・腎臓・神経内科 准教授	2社から	11万5685円
大澤登志	愛媛大学大学院医学系研究科 糖尿病内科学 教授	4社から	82万2740円
小田草雅人	東京医科歯科大学病院 糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 副院長	11社から	535万4479円
小畠宣男	関西医科大学医学部附属高麗天王寺東江高齋病院 医療センター 糖尿病・内分泌内科 主任教授	2社から	21万1370円
折笠秀樹	富山大学大学院医学系研究科 バイオ統計学 糖尿病部門 教授	2社から	61万2535円
加東清平	川崎医科大学 総合内科学1 特任教授	13社から	1280万9479円
寺田雅人	国立国際医療研究センター 総員	2社から	27万8425円
門脇孝	東邦大学大学院医学系研究科医学部内科学専攻 生体防衛 機能内科学講座代謝・栄養病態学 教授	11社から	539万58483円
四方賢一	岡山大学病院 痘瘍研究開発センター 教授	3社から	52万2741円
島野仁	筑波大学 医学部医学系内分泌代謝・糖尿病内科 教授	3社から	31万7055円
曾根博仁	新潟大学大学院医歯学系総合研究科 血液・内分泌・代謝内科学分野 教授	2社から	27万8426円
田嶋尚子	東京慈恵会医科大学 名譽教授	2社から	25万6152円
難波光範	兵庫医科大学 内科学 糖尿病・内分泌・代謝科 主任教授	2社から	41万7056円
羽田勝計	川口医科大学 内科学講座糖尿病内科学分野 教授	7社から	190万1633円
藤田征弘	川口医科大学 内科学講座病態代謝内科学分野 学内講師	1社から	10万円
鶴川聰	滋賀医科大学 内科学講座 糖尿病・腎臓・神経内科 教授	4社から	52万2740円
山下英樹	山形大学大学院医学系研究科 糖尿病講座 教授	1社から	27万8426円
樋野浩一	北摺病院総合医療センター 実践長	1社から	11万1370円
大庭直樹	29人×22人		

脈硬化（動脈硬化性疾患予防ガイドライン2012）

先生	東京大学 痢疾研究センター センター長	4社から 150万1685円
先生	自治医科大学 内科内鏡専門内浮遊代謝学部門 教授	4社から 30万460円
直美	岐阜県総合医療センター 生涯部長兼内科部長	1社から 5万5685円
女士	江東区立アートクリニック 順長	2社から 15万5685円
教授	慶應義塾大学国際部 医学生会公認委主生 教授	1社から 45万円
准教授	関西大学 痢疾内科学 教授	6社から 190万6826円
准教授	千葉大学大学院医学研究科 総合治療内科学 教授	9社から 145万5252円
准教授	大阪市立大学医学系研究科 総合地域医学専門講座 教授	1社から 5万5685円

つ癌（日本）つ癌学会指針ガイドライン

吉田	信州大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究科精神医学分野 教授	2社から	25万583円
矢井	名古屋大学医学部附属病院 精神科科長	6社から	28万354円
三史	理化学研究所脳科学総合研究センター 精神疾患創薬研究チーム シニア チームリーダー	3社から	50万1168円
佐信	九州大学大学院医学研究科 精神疾患医学分野 特任	7社から	109万993円
西秀	九州大学大学院 人間環境学研究院臨床心理学講座 教授	1社から	16万7056円
佐玉	信州大学医学部 精神医学講座 講師	1社から	16万7056円
寺	大分大学医学部 精神神経医学講義 教授	1社から	16万7056円
田中	国立精神・神経医療研究センター トランクレーションナル・アイカールセンター精神医療支援部 部長	3社から5	83万4812円
原博	国立精神・神経医療研究センター 病院 理事長／総長	3社から	150万5165円
多	北京大学医学部 精神神経科学 主任教授	1社から5	11万1370円
西男	東京女子医科大学附属病センター 精神科 教授	4社から	37万8059円
久人	信州大学大学院医療系保健科学研究科 精神神経医学 西京	1社から	27万58428円
一部	吉林大学医学部 精神神経科教室 教授	B社から	434万893円

の説明 日本製薬工業協会掲載の「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」にて、製薬会社が開示した情報に基づき作成。製薬会社が1年間（原則として2013年度）に医療機関に支払った「原稿料算用料等」項目の「コンサルティング業務委託費」の開示情報支払いが確認できた「接洽ガイドライン」の作成委員を掲載。対象となる委員の経歴などは各表の下部に記す。調査対象製薬会社は1月15日時点で情報を開示した年賀状上記25社の製品を扱う会社、または企業家上記25社に販売会社。そのうち医師団員に支払いがある会社は下記の27社となる。各医師の名前、所属院、役職の表記については開示情報による。

「M情報のあった製薬企業」……アステラス製薬、アストラゼネカ、アボットジャパン、ザイ、MSD、大塚製薬、小野薬品工業、キッセイ薬品工業、協和発酵キリン、グラ・スミスクライン、サノフィ、塩野義製薬、第一三共、大正製薬/大正富山医薬品、製品工業、大日本住友製薬、田辺三菱製薬、中外製薬、日本イーライリリー、日本ベンガイングルハイム、ノバルティスファーマ、バイエル薬品、ファイザー、ブリスト・マイヤーズ、神田製薬、サンセンシファーマ